

# 大人の 社会 見学

鹿屋の地で育まれた  
名品・名産・名所などの  
よかもんをご紹介します

たんこう  
しょうかくつきかふと  
短甲・衝角付胄



串良ふれあいセンター  
歴史民俗資料室  
串良町有里507-1  
☎0994-63-5030

ナビゲーター

鹿屋市文化財保護  
審議会 会長



隈元 信一さん  
しんいち



鹿屋指定有形文化財（考古資料） 昭和41年3月11日指定  
**短甲・衝角付胄**  
発見年月日 昭和23年8月11日  
発見場所 鹿屋市西萩川町中塚  
この短甲・衝角付胄は、西萩川流域近くの遺跡を工事中に偶然発見された地下式横穴（地下式土城）より武刀、盾、土器などと共に出土したものである。衝角の材質は銅製で生火式流離のもので、甲冑も古墳時代（約1500年前）のものと考えられている。短甲は鉄板を何枚かつなげ合わせたもので、正面が重畳で固定されている。衝角は木製と推定され、古来の車輪の軸木につけられていた戦馬用の衝角に似ているためつけられたと推定される。これらと同じようなものは鹿屋九種の古墳から出土するが、西萩川では珍しい貴重な資料である。

鹿屋市には現在、6件の鹿屋  
島県指定文化財があります。そ  
のうち有形文化財として県指定  
を受けている「短甲・衝角付胄」  
について、市文化財保護審議会  
会長の隈元信一さんに紹介して  
いただきました。

「この短甲と胄は、5世紀ごろ  
の古墳時代のもので、昭和25  
年、西萩川町で道路工事を行っ  
た際に、約1,500年前の古  
代人の墓である『地下式横穴墓』  
が発見され、この横穴墓から土  
器等と一緒に出土しました。



短甲はいわゆる鎧ですが、そ  
の名前が示すように胴体全部を  
覆うものではなく、丈が低い鎧  
です。防弾チョッキをイメージ  
すると分かりやすいと思いま  
す。衝角付胄は頭を覆う防具で  
すが、先が軍艦のへさき（衝角）  
の形をしている特長から、この  
名前で呼ばれています。

市内ではこのほか、串良町の  
岡崎15号墳という前方後円墳か  
らも短甲が見つかっています。  
岡崎のものとは作り方が異なる、  
より古い形式のものですが、形  
がきちんと残っています。元  
の形に近い状態で見つかること

は鹿屋島では非常に珍しいこと  
から、昭和41年に県指定文化財  
に指定されました。

ただ、元の形に近い状態で見  
つかったとは言え、1,500  
年も前の鉄製の短甲と胄です。  
出土時は腐食等も相応に進んで  
いたため、平成20年から、文化  
財保護が専門の、奈良県の研究  
機関との共同事業で大補修を開  
始。すべてを一度分解してから、  
鉄の中に含まれる塩分を取り除  
いたり、さび止めの処理を施し  
たりする作業を3年かけて行っ  
た結果、部品を錆でつなぎ合わ  
せる構造など、細かな部分まで  
はつきり目視できるようになり  
ました。

現在、この短甲と胄は、串良  
ふれあいセンターの歴史民俗資  
料室に展示しています。ぜひご  
覧いただき、いにしえの鹿屋に  
思いを馳せてみてはいかがでしょうか。」